

太宰府の梅上げ行事

提案団体：太宰府梅ばやし隊

伝えたい物語

「梅上げ」とは、初老（40歳）を迎える男性、還暦（60歳）を迎える男女が、それぞれ厄払いとして太宰府天満宮に梅の木を献ずる太宰府特有の行事です。

梅上げは3月に行われ、中央公民館を出発点に「どんかん道」「さいふまいるの道」や参道を通して、梅の木を飾り付けた牛が引く荷車、三味線・鉦、太鼓のお囃子隊が列を連ね、両の手に持つしゃもじを打ち、お揃いの法被と手ぬぐいの装束で紅白の小餅を道行く人やお接待の人たちに配りながら練り歩きます。最後に天満宮の境内の一角に牛にひかせた梅の木を植樹します。行列を待ち受ける沿道の家々や参道の土産物店も今か今かとお接待の準備をして待ち受けたり、参加者の家族が沿道の一角にテーブルを運んできてお接待をする様子は、この時期の太宰府の風物詩となっています。

梅上げの歴史は、明治35（1902）年に行われた太宰府天満宮菅原道真公御神忌一千年大祭に遡り、その際、博多の高砂連600名が太宰府の街中を練り歩いて天満宮に奉納したことがその起源として伝えられています。また、一千年大祭に併せた境内の整備に伴って梅の木の植樹が始まり、この時、氏子を中心とした太宰府の人たちが初老、還暦の祝い行事を太宰府小学校同窓生と一緒に天満宮に梅の木を奉納しようという「梅上げ」の献梅行事として始まったとも言われています。

当初、梅上げの先頭に行く「お囃子隊」は、初老、還暦を迎える人たちの家族や知り合いなど太宰府に縁がある人たちによって少ない時は2～3人、多い時でも10数名の人たちにより三味線、太鼓のお囃子隊が先導していましたが、太宰府市内で三味線、お囃子を永年続けられている方々の中から声があがり、50数名が集まって平成24（2012）年「太宰府梅ばやし隊」が発足しました。

今後とも、太宰府地域特有の個性ある伝統行事である梅上げがいつまでも続いていこう、太宰府の伝統文化を育成・継承していきます。

物語の基礎となる文化遺産

- 梅上げ行事
- 梅上げ関連各社新聞記事
- 梅上げ古写真
- 梅上げ写真・アルバム
- お囃子隊
- 天満宮境内の献梅と立札（石碑）
- 梅引き台車
- 梅引きの牛
- 梅上げ法被
- 梅上げ餅袋 など



明治22年丑年生まれ初老梅上げ（昭和4年）



梅上げの隊列



沿道でのお接待



梅引き牛と台車



手ぬぐいと紅白餅

育成活動

①梅上げのお囃子隊の同行とその育成

②梅上げの写真を集める活動

- ・展示会や広報等での呼びかけ

③その他の取り組み

- ・看板設置やホームページによる梅上げ開催の広報活動
- ・「梅上げ」写真展の開催 など



太宰府梅ばやし隊



梅の植樹のようす